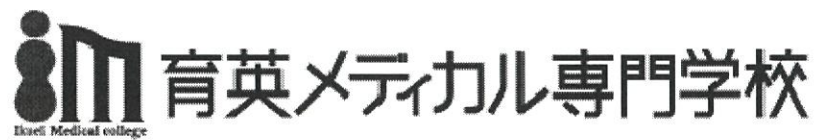


令和 6 年度



鍼灸学科 1 年

講義要項 (シラバス)

講義科目名	国 語	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>どんな科目を勉強するにも必要な「日本語」を正しく理解する力や、さまざまな問題を解く力を身につけていきます。前期では、自国の言葉を見直して正しく理解すること、主に基礎的な漢字や敬語、簡単な文章の読解などを通して基礎を固めます。</p> <p>後期では、前期の学習をふまえ、複雑な日本語の言い回しや、社会人として必要な文書作成、履歴書作成などを行います。</p> <p>一般教養としての枠をこえ、これからの学習及び試験、そして卒業後にも生かせる国語力を身につける授業を目指します。</p> <p>これまで中学・高校などで学んできた「国語」とは異なるものですので、しっかり学んで今後に生かせるようにしてください。</p> <p>また、マインドマップの内山雅人先生による特別講座を年4回行います。</p> <p>脳の使い方、ノートの取り方など、今後の勉強にも役に立つことがたくさんありますので、集中して受講してください。</p>		
評 価	出席状況、授業態度、小テストなども総合評価として加味します。		
備 考	講義はスライド及びプリントを用いて行います。		
参考書等	テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。		

第1学年 科目(国語)

担当(梅山 理恵)

編	章	節	時数	日付	内容
1		国語(基礎)	1	4月8日	YGテスト・課題確認テスト
2		国語(基礎)	2	4月15日	合格者課題解答・解説
3		国語(基礎)	3	4月22日	自分の国語能力を知る①
4		国語(基礎)	4	5月13日	自分の国語能力を知る②
5		特別講座	5	5月20日	マインドマップ講座①(マインドマップ基礎)
6		国語(基礎)	6	5月27日	漢字から日本語を知る(一般常識レベル)①
7		国語(基礎)	7	6月3日	漢字から日本語を知る(一般常識レベル)①
8		国語(基礎)	8	6月10日	文のきまり、基礎的な文法
9		国語(基礎)	9	6月17日	敬語・敬意表現
10		国語(基礎)	10	6月24日	文章読解・要約(基礎)①
11		国語(基礎)	11	7月1日	文章読解・要約(基礎)②
12		国語(基礎)	12	7月8日	国語作品制作①
13		国語(基礎)	13	7月15日	国語作品制作②
14		国語(基礎)	14	7月22日	国語作品制作③
15		国語(基礎)	15	7月29日	語彙力①
16		国語(基礎)	16	8月5日	前期復習
17	前期末試験	国語(基礎)	17	8月19日	前期末試験
18		国語(基礎)	18	8月26日	語彙力②
19	解答・解説	国語(基礎)	19	9月2日	解答・解説
20		特別講座	20	9月9日	マインドマップ講座②(目標設定)
21		国語(応用)	21	9月23日	医療漢字の読み書き(常用漢字)
22		国語(応用)	22	9月30日	医療漢字の読み書き(常用外漢字)
23		国語(応用)	23	10月7日	文章説明
24		国語(応用)	24	10月21日	文章作成
25		国語(応用)	25	10月28日	日本語表現(キヤッチコピー)①
26		国語(応用)	26	11月4日	日本語表現(キヤッチコピー)②
27		特別講座	27	11月11日	マインドマップ講座③(人間力)
28		国語(応用)	28	11月18日	履歴書の書き方
29		国語(応用)	29	11月25日	履歴書の書き方②
30		国語(応用)	30	12月2日	挨拶文の書き方①
31		国語(応用)	31	12月9日	挨拶文の書き方②
32		国語(応用)	32	12月16日	日本語のルール①
33		国語(応用)	33	1月6日	日本語のルール②
34		国語(応用)	34	1月20日	文章読解・要約(応用)①
35		国語(応用)	35	1月27日	文章読解・要約(応用)②
36		国語(応用)	36	2月3日	後期復習
37	後期末試験	国語(応用)	37	2月10日	後期末試験
38		国語(応用)	38	2月17日	文章読解・要約(応用)③
39	解答・解説	国語(応用)	39	2月24日	解答・解説
40		特別講座	40	3月3日	マインドマップ講座④(その後)にむけて

※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。  
 ※日程は変更されることがあります。

合計時数

講義科目名	鍼灸実技Ⅱ基礎	分野区分	専門分野
担当教員名	吉原 嗣(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>灸の基礎的な知識・技術を学び、習得し、それをもって患者に対して真摯な態度で臨めるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・灸の材料、性質などについて説明することができる。</li> <li>・適切な大きさ、形の艾炷を捻ることができる。</li> <li>・安全に艾炷に点火できる。</li> <li>・適切な熱の緩和ができる。</li> <li>・適切な対人関係を築くことができる。</li> <li>・施術時間を組み立てることができる。</li> </ul>		
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験をもって各期末の基本評価とする。</li> <li>・課題がある場合、未提出であると単位は認定されないものとする。</li> </ul>		
備 考	<p>【前期】7月22日、7月29日に実技試験を行う。  【後期】1月20日、1月27日、2月3日に実技試験を行う。  ※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。</p>		
参考書等			

第1学年		科目(鍼灸実技Ⅱ基礎)		担当(吉原 嗣)		内容		
編	章	節	時数	日付	内容			
前期	1		1	4月8日	ガイダンス 実技の注意事項			
	2		2	4月15日	艾の種類や特徴			
	3		3	4月22日	艾柱作成 米粒大			
	4		4	5月13日	クリップボード上での米粒大の艾柱作成			
	5		5	5月20日	灰除法の練習			
	6		6	5月27日	艾柱への点火の手順・注意点			
	7		7	6月3日	クリップボード上での施灸練習			
	8		8	6月10日	クリップボード上での施灸練習			
	9		9	6月17日	施灸練習(自己)/知熱緩和法			
	10		10	6月24日	施灸練習(自己)/知熱緩和法			
	11		11	7月1日	紙上点灸			
	12		12	7月8日	紙上点灸			
	13		13	7月15日	紙上点灸			
	14	実技試験		14	7月22日	実技試験		
	15	実技試験		15	7月29日	実技試験		
	16			16	8月5日	実技総評		
	17			17	8月19日	隔物灸(塩灸)		
	18			18	8月26日	下肢陽経への施灸		
	19			19	9月2日	下肢陽経への施灸		
	後期	20		20	9月9日	身体各症状に対する施灸		
21			21	9月23日	身体各症状に対する施灸			
22			22	9月30日	身体各症状に対する施灸			
23			23	10月7日	胃の六つ灸			
24			24	10月21日	身体各症状に対する施灸			
25			25	10月28日	身体各症状に対する施灸			
26			26	11月4日	身体各症状に対する施灸			
27			27	11月11日	胃の六つ灸			
28			28	11月18日	身体各症状に対する施灸			
29			29	11月25日	身体各症状に対する施灸			
30			30	12月2日	身体各症状に対する施灸			
31			31	12月9日	薬物灸			
32			32	12月16日	実技訓練			
33			33	1月6日	実技訓練			
34		実技試験		34	1月20日	実技試験		
35		実技試験		35	1月27日	実技試験		
36		実技試験		36	2月3日	実技試験		
37				37	2月10日	実技総評		
38				38	2月17日	棒灸/線香灸		
39				39	2月24日	太極療法について		
40			40	3月3日	総括			
			合計時数	40	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。			

講義科目名	東洋医学概論Ⅰ	分野区分	専門分野
担当教員名	福島 功一	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>【 概要 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍼灸師として必要な知識のひとつである、東洋思想の基礎理論を学習する。</li> <li>・心身の生理機能についての基礎理論を学習する。</li> <li>・健康を損なう原因の基礎理論を学習する。</li> <li>・生理機能の失調で引き起こされる心身の病態理論を学習する。</li> <li>・東洋医学に基づいた診察理論と方法を学習する。</li> </ul> <p>【 目標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋思想を理解・説明できる。</li> <li>・東洋医学に基づいた観点で心身の機能を理解・説明できる。</li> <li>・東洋医学に基づいた観点で心身の機能失調を理解・説明できる。</li> <li>・東洋医学の診察理論と方法を理解し、心身の状態を把握・説明できる。</li> </ul> <p>【 授業形式 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> </ul>		
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験の素点に問題ゼミの得点を加えた合計点の70%と実力試験の科目別得点の30%を合算した点数が各期末の最終評価となる(最終評価は100点を超えない)。</li> <li>・出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味する。</li> </ul>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、小テスト・口頭試問・復習課題を実施する。</li> <li>・授業に用いる資料はA3およびA4サイズで配布する。</li> <li>・2色以上のカラーペンおよびマーカーペンを用意すること。</li> <li>・進捗状況や理解度に応じて授業内容を変更する場合がある。</li> </ul>		
参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版 東洋医学概論(医道の日本社)</li> </ul>		

第1学年 科目(東洋医学概論I)			担当(福島 功一)			
編	章	節	時数	日付	内容	
1	基礎理論	東洋医学の起源と発展	1	4月9日	東洋の古代思想と東洋医学の古典	
2		陰陽五行論①	2	4月16日	陰陽論	
3		陰陽五行論②	3	4月23日	五行論①	
4		陰陽五行論③	4	5月7日	五行論②	
5		生理物質①	5	5月14日	気・血・津液・精①	
6		生理物質②	6	5月21日	気・血・津液・精②	
7		生理物質③	7	5月28日	気・血・津液・精③	
8	生理	蔵象①	8	6月4日	臓腑①	
9		蔵象②	9	6月11日	臓腑②	
10		蔵象③	10	6月18日	臓腑③	
11		蔵象④	11	6月25日	臓腑④	
12		蔵象⑤	12	7月2日	臓腑⑤	
13		蔵象⑥	13	7月9日	臓腑⑥	
14		蔵象⑦	14	7月16日	臓腑⑦	
15		経絡①	15	7月23日	経脈と絡脈①	
16		経絡②	16	7月30日	経脈と絡脈②	
17		前期末試験	17	8月20日	前期末試験	
18		病因と病理 解答・解説	病因論①	18	8月27日	外感病因①
19			解答・解説	19	9月3日	解答・解説
20		病因と病理	病因論②	20	9月10日	外感病因②
21	病因論③		21	9月24日	内傷病因①	
22	病因論④		22	10月8日	内傷病因②	
23	病理と病証①		23	10月15日	八綱病証①	
24	病理と病証②		24	10月22日	八綱病証②	
25	病理と病証③		25	10月29日	気血津液病証①	
26	病理と病証④		26	11月5日	気血津液病証②	
27	病理と病証⑤		27	11月12日	気血津液病証③	
28	病理と病証⑥		28	11月19日	臓腑病証①	
29	病理と病証⑦		29	11月26日	臓腑病証②	
30	病理と病証⑧		30	12月3日	臓腑病証③	
31	病理と病証⑨		31	12月10日	臓腑病証④	
32	病理と病証⑩		32	12月17日	臓腑病証⑤	
33	病理と病証⑪		33	1月7日	臓腑病証⑥	
34	病理と病証⑫	34	1月14日	臓腑病証⑦		
35	病理と病証⑬	35	1月21日	経絡病証①		
36	病理と病証⑭	36	1月28日	経絡病証②		
37	後期末試験	37	2月4日	後期末試験		
38	四診 解答・解説 四診	四診①	38	2月11日	望診①	
39		解答・解説	39	2月18日	解答・解説	
40		四診②	40	2月25日	望診②	
40		合計時数	40			※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。

講義科目名	鍼灸実技 I 基礎	分野区分	専門分野
担当教員名	佐藤 真之(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>鍼灸実技 I では基礎的な刺鍼技術の習得を目指す。  鍼灸は人格を磨くとともに診断の技術、刺鍼の技術を学ばなければならない。  とりわけ刺鍼技術は鍼灸業の基礎であり、生涯にわたって研鑽すべきものであろう。  1年時に学ぶ基礎実技を基にして、臨床現場で通用する鍼灸師を目指していただきたい。</p>		
評 価	<p>実技試験をもって各期末の評価とする。</p>		
備 考	<p>経絡経穴概論の教科書は常に持参すること。  前期試験は8月20日・8月27日・9月3日に行う。  後期試験は1月28日・2月4日・2月11日に行う。</p>		
参考書等	<p>鍼灸臨床手技マニュアル(医歯薬出版)  鍼術入門講座(医道の日本社)  鍼灸治療学(医道の日本社)  ツボ単(NTS)</p>		



第1学年 科目(鍼灸実技I基礎) 担当(佐藤 真之)

編	章	節	時数	日付	内容
1	導入	導入	1	4月9日	オリエンテーション、実習上の注意、鍼灸実習用具の取扱い、鍼の持ち方、片手挿管
2	基礎実習①	基本手技、施術上の注意①	2	4月16日	片手挿管、前揉捻・後揉捻の意味と方法
3	基礎実習②	基本手技、施術上の注意②	3	4月23日	片手挿管、前揉捻・後揉捻の意味と方法、押手の方法、弾入と切皮、タオルへの刺鍼
4	基礎実習③	下腿前面への練習	4	5月7日	片手挿管、刺鍼手順に従ったタオルへの刺鍼、自分への刺鍼
5	基礎実習④	下腿前面への練習	5	5月14日	片手挿管、刺鍼手順に従ったタオルへの刺鍼、自分への刺鍼
6	基礎実習⑤	下腿前面への練習	6	5月21日	片手挿管、刺鍼手順に従った自分への刺鍼
7	基礎実習⑥	下腿前面への練習	7	5月28日	片手挿管、刺鍼手順に従った自分への刺鍼
8	基礎実習⑦	組合せでの練習(下腿前面)	8	6月4日	片手挿管、消毒法、過誤(折鍼と気胸)と安全管理、相手への刺鍼
9	基礎実習⑧	組合せでの練習(下腿前面)	9	6月11日	片手挿管、消毒法、過誤(折鍼と気胸)と安全管理、相手への刺鍼
10	基礎実習⑨	組合せでの練習(下腿前面)	10	6月18日	片手挿管、消毒法、過誤(折鍼と気胸)と安全管理、相手への刺鍼
11	基礎実習⑩	組合せでの練習(腰部)	11	6月25日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼
12	基礎実習⑪	組合せでの練習(腰部)	12	7月2日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼、十七手技①
13	基礎実習⑫	組合せでの練習(腰部)	13	7月9日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼、十七手技②
14	基礎実習⑬	組合せでの練習(腰部)	14	7月16日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼、十七手技③
15	基礎実習⑭	組合せでの練習(腰部)	15	7月23日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼、十七手技④
16	基礎実習⑮	組合せでの練習(腰部)	16	7月30日	片手挿管、安全深度の確認、相手への刺鍼、十七手技④
17	試験	試験	17	8月20日	組合せでの試験①
18	試験	試験	18	8月27日	組合せでの試験②
19	試験	試験	19	9月3日	組合せでの試験③
20	総括	組合せでの練習	20	9月10日	試験の復習、今後の課題指摘
21	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	21	9月24日	横刺① 脊椎指標の確認 原穴の部位確認と刺鍼 腰部への刺鍼
22	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	22	10月8日	横刺② 脊椎指標の確認 原穴の部位確認と刺鍼 腰部への刺鍼
23	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	23	10月15日	横刺③ 脊椎指標の確認 原穴の部位確認と刺鍼 腰部への刺鍼
24	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	24	10月22日	横刺④ 脊椎指標の確認 郄穴の部位確認と刺鍼 背部への刺鍼
25	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	25	10月29日	横刺⑤ 脊椎指標の確認 郄穴の部位確認と刺鍼 背部への刺鍼
26	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	26	11月5日	横刺⑥ 脊椎指標の確認 郄穴の部位確認と刺鍼 背部への刺鍼
27	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	27	11月12日	横刺⑦ 脊椎指標の確認 絡穴の部位確認と刺鍼 頸部への刺鍼
28	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	28	11月19日	横刺⑧ 脊椎指標の確認 絡穴の部位確認と刺鍼 頸部への刺鍼
29	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	29	11月26日	横刺⑨ 脊椎指標の確認 絡穴の部位確認と刺鍼 頸部への刺鍼
30	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	30	12月3日	横刺⑩ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 頭部への刺鍼
31	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	31	12月10日	横刺⑪ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 頭部への刺鍼
32	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	32	12月17日	横刺⑫ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 上肢への刺鍼
33	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	33	1月7日	横刺⑬ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 上肢への刺鍼
34	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	34	1月14日	横刺⑭ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 下肢への刺鍼
35	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	35	1月21日	横刺⑮ 脊椎指標の確認 経穴の部位確認 下肢への刺鍼
36	試験	試験	36	1月28日	組合せでの試験①
37	試験	試験	37	2月4日	組合せでの試験②
38	試験	試験	38	2月11日	組合せでの試験③
39	主な経穴の取穴と刺鍼	組合せでの練習	39	2月18日	試験の復習、今後の課題指摘
40	総括	総括	40	2月25日	総括
合計時数			40		

※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。  
※日程は変更されることがあります。

講義科目名	倫理学	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	前 期
講義内容	<p>「倫理とは何か」「なぜ倫理は私たちに必要なものなのか」というところから学習をはじめ、医療という場における倫理について理解を深めていきます。</p> <p>医療従事者となることを自覚して、命に係わる倫理的問題や医療現場における倫理的問題について、十分な知識を修得し、それについて真摯に考える力をつけることを目標とします。</p> <p>授業の中心は、話し合い形式のグループワークです。医療現場での倫理的問題などを取り上げ考察することを通して、自己の倫理観を養っていきます。</p> <p>各テーマに真剣に取り組み、自分の意見をしっかり伝え、相手の意見を真摯に受け止めてください。</p>		
評 価	<p>定期試験だけでなく、授業態度を重視します。</p> <p>主に、出席とグループワーク・討論などの態度を重視して評価します。</p>		
備 考	<p>講義はスライド及びプリントを用いて行います。</p>		
参考書等	<p>テキストは使用しません。授業時にプリントを配ります。</p>		

第1学年 科目(倫理学)

担当(梅山 理恵)

編	章	節	時数	日付	内容	
1		オリエンテーション	1	4月10日	ガイダンス(倫理学とは何か・グループワークについて)	
2		倫理と道徳	2	4月17日	規範倫理学の3つの立場・道徳的ジレンマ	
3		生命倫理	3	4月24日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知1	
4		生命倫理	4	5月8日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知2	
5		生命倫理	5	5月15日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知3	
6		生命倫理	6	5月22日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植1	
7		生命倫理	7	5月29日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植2	
8		生命倫理	8	6月5日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植3	
9		生命倫理	9	6月12日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死1	
10		生命倫理	10	6月19日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死2	
11		生命倫理	11	6月26日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死3	
12		生命倫理	12	7月3日	生殖医療にまつわる倫理的問題①	
13		生命倫理	13	7月10日	生殖医療にまつわる倫理的問題①	
14		職業倫理	14	7月17日	鍼灸師としての倫理	
15		医療倫理	15	7月24日	患者の自己決定権の尊重・QOL・医療倫理の四原則	
16		医療倫理	16	7月31日	患者の自己決定権の尊重・QOL・医療倫理の四原則	
17		前期末試験	17	8月21日	ケーススタディ(対応の難しい患者)	
18		医療倫理と法	18	8月28日	前期末試験	
19		解答・解説	19	9月4日	鍼灸師が関係する判例①	
20		倫理と他分野	20	9月11日	解答・解説	
合計時数					20	倫理学と関係のある他分野について
					20	※日程は変更されることがあります。

講義科目名	コミュニケーション理論	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	後 期
講義内容	<p>この授業では、「コミュニケーションとは何か」について、様々な視点から学ぶことを目的とします。また、授業を通じて知識として学ぶだけでなく、活用できる力を養うことを期待します。</p> <p>日常生活で、言葉によるやりとりは当たり前のように行われ、様々なコミュニケーションツールも増えていますが、「誰とでも話ができること」を「コミュニケーション能力が高い」と勘違いしている人も多くいるように思います。一方的な会話はコミュニケーションとは呼べません。真のコミュニケーション及びコミュニケーション能力とは何かについて学ぶことで、コミュニケーションについてより深い理解に到達することを目指します。</p> <p>さらに、鍼灸師として必要なコミュニケーション技術に関する知識と技術を習得し、卒業後に生かすことも目標とします。</p> <p>特に患者さんとの信頼関係を構築するために必要なコミュニケーション技法について理解を深めるとともに、様々なワークを通じてチームビルディングの方法についても学びます。</p>		
評 価	<p>定期試験だけでなく、授業態度を重視します。</p> <p>主に普段のグループワーク・討論などの態度を重視して評価します。</p> <p>コミュニケーション研修の出席は必須とする。欠席の場合は単位を認定しないことがあります。</p>		
備 考	<p>講義はスライド及びプリントを用いて行います。</p>		
参考書等	<p>テキストは使用しません。授業時にプリントを配ります。</p>		

第1学年 科目(コミュニケーション理論) 担当(梅山 理恵)

週	編	章	節	時数	日付	内容
21			オリエンテーション	1	9月25日	コミュニケーションを学ぶ意義
22				2	10月2日	アイスブレイク
23				3	10月9日	セルフリサーチ①(自己理解)
24				4	10月16日	セルフリサーチ②(自己理解と相手理解)
25				5	10月23日	1Wayコミュニケーションの練習(スピーチ)
26				6	10月30日	非言語コミュニケーション
27				7	11月6日	言語コミュニケーション①(聴き方・質問技法)
28				8	11月20日	言語コミュニケーション②(話し方・気持ちの良い会話)
29				9	11月27日	アサーションワーク(自己主張)①
30				10	12月4日	アサーションワーク(自己主張)②
31				11	12月11日	ストレスマネジメント
32				12	12月18日	チームビルディング
33				13	1月8日	現代のコミュニケーションツールを使う①
34				14	1月15日	現代のコミュニケーションツールを使う②
35				15	1月22日	現代のコミュニケーションツールを使う③
36				16	1月29日	復習・まとめ
37				17	2月5日	後期末試験
38				18	2月12日	ティーチングとコーチング
39				19	2月19日	解答・解説
40				20	2月26日	ビジネスコミュニケーション
合計時数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	生理学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	今井 香菜	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>生理学では、どのような仕組みで私達の身体が正常に機能しているのか、その調節機構についてを学ぶ。人間の身体の仕組みについて、個々の機能の基本的な理解を深め、生体全体の相互機能を理解することを目的に学習していく。</p> <p>生理学 I では、教科書の前半部分である第1章から第6章、第8章から第9章までを学習する。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点70%と実力試験の得点30%の合計点が各期末の評価となります。課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。出席状況、授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味することがあります。</p>		
備 考	<p>進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。</p>		
参考書等	<p>教科書:生理学 医歯薬出版</p>		

第1学年 科目(生理学I)				担当(今井 香菜)			
編	章	節	時数	日付	内容		
前期	第1章	A節	1	4月10日	生理機能の特徴		
		B節	2	4月17日	細胞の構造と機能		
		C節	3	4月24日	物質代謝		
		D節	4	5月8日	体液の組成と働き		
		E節	5	5月15日	物質の移動		
	第2章	A節	6	5月22日	血液の組成と働き		
		B節	7	5月29日	止血・線維素溶解・血液型		
		E節	8	6月5日	心臓血管系		
		F節	9	6月12日	心臓の構造と働き		
		G節	10	6月19日	血液循環		
		H節	11	6月26日	循環調節・リンパ系		
	第3章	A節	12	7月3日	呼吸器系		
		B節	13	7月10日	換気とガス交換		
		C節	14	7月17日	呼吸運動とその調節		
	第8章	A節	15	7月24日	ホルモンの特徴①		
		A節	16	7月31日	ホルモンの特徴②		
	前期末試験			17	8月21日	前期末試験	
	B節	18	8月28日	ホルモンの種類とその働き①			
解答・解説			19	9月4日	解答・解説		
	B節	20	9月11日	ホルモンの種類とその働き②			
	B節	21	9月25日	ホルモンの種類とその働き③			
	B節	22	10月2日	ホルモンの種類とその働き④			
第9章	A節	23	10月9日	生殖			
	B節	24	10月16日	妊娠と出産			
	C節	25	10月23日	成長・老化			
第4章	A節	26	10月30日	消化と吸収			
	B節	27	11月6日	消化管の運動			
	C節	28	11月20日	消化液			
	D節	29	11月27日	吸収			
	E節	30	12月4日	肝臓の働き・摂食の調節			
第5章	A節	31	12月11日	食品と栄養素			
	B節	32	12月18日	代謝①			
	B節	33	1月8日	代謝②			
	C節	34	1月15日	各栄養素の働きと代謝			
第6章	A節	35	1月22日	体温調節			
	B節	36	1月29日	体熱の産生と放散			
後期末試験			37	2月5日	後期末試験		
第6章	C節	38	2月12日	発汗とその調節			
解答・解説			39	2月19日	解答・解説		
	D節	40	2月26日	体温調節の障害			
合計				40	※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	解剖学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	佐野 潮里	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>解剖学では人体は何で構成されているのかを学んでいく。          国家試験においても他の科目の土台となり大切な科目となっている。臨床においては鍼灸院、病院、介護など様々な現場で解剖学が情報交換や患者への説明などに共通言語として用いられている。          初学者にとっては聞きなれない用語が多くあるかと思うが、絵や図などを用いて学習できるようにしていく。</p>		
評 価	<p>期末試験(70%)と実力試験(30%)の合計点が各期末の評価となります。          課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。          出席状況や授業態度は年度末の総合評価の時点で加味します。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。</li> <li>・進行状況や理解度に応じて、小テスト、問題演習を行うこともあります。</li> </ul>		
参考書等	<p>解剖学第2版 東洋療法学校協会編(医歯薬出版)</p>		



## 第1学年 科目(解剖学Ⅰ)

## 担当(佐野潮里)

編		章	節	時数	日付	内容	
前期	1	運動器系	運動器系総論、骨格系総論	1	4月11日	解剖学の基本用語	
	2	運動器系	骨格系各論①脊柱	2	4月18日	運動器系総論 骨格系総論	
	3	運動器系	骨格系各論①脊柱	3	4月25日	脊柱の構成と各椎骨の特徴①	
	4	運動器系	骨格系各論①脊柱	4	5月9日	脊柱の構成と各椎骨の特徴②	
	5	運動器系	骨格系各論②胸郭、上肢帯	5	5月16日	胸郭、上肢帯の骨	
	6	運動器系	骨格系各論③上肢の骨	6	5月23日	上肢帯骨②	
	7	運動器系	骨格系各論③上肢の骨	7	5月30日	上腕骨、前腕骨、手の骨	
	8	運動器系	骨格系各論④上肢の関節	8	6月6日	関節総論、上肢の関節	
	9	運動器系	骨格系各論⑤下肢の骨1	9	6月13日	寛骨、骨盤	
	10	運動器系	骨格系各論⑥下肢の骨2	10	6月20日	大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、足の骨	
	11	運動器系	骨格系各論⑦下肢の関節	11	6月27日	下肢の関節と足弓	
	12	運動器系	骨格系各論⑧頭蓋の骨1	12	7月4日	頭蓋骨、脳頭蓋	
	13	運動器系	骨格系各論⑧頭蓋の骨2	13	7月11日	頭蓋骨、脳頭蓋②	
	14	運動器系	骨格系各論⑧頭蓋の骨3	14	7月18日	頭蓋骨、顔面頭蓋、顎関節	
	15	運動器系	骨格系各論⑧頭蓋の骨4	15	7月25日	頭蓋骨、顔面頭蓋、顎関節②	
	16	運動器系	筋系総論	16	8月1日	筋系総論、筋の作用と運動	
17	前期末試験		17	8月22日	前期末試験		
18	解答・解説		18	8月29日	浅胸筋、深胸筋、横隔膜		
19	解答・解説		19	9月5日	解答・解説		
後期	20	運動器系	筋系各論①胸部の筋と呼吸	20	9月12日	前腹筋、側腹筋、後腹筋、会陰筋	
	21	運動器系	筋系各論②腹部の筋	21	9月26日	浅背筋	
	22	運動器系	筋系各論③背部の筋	22	10月3日	深背筋、体幹の運動	
	23	運動器系	筋系各論④上肢の筋1	23	10月10日	上肢帯の筋	
	24	運動器系	筋系各論⑤上肢の筋2	24	10月17日	上腕の筋	
	25	運動器系	筋系各論③上肢の筋3	25	10月24日	前腕の筋	
	26	運動器系	筋系各論③上肢の筋4	26	10月31日	手の筋、上肢の運動	
	27	運動器系	筋系各論④下肢の筋1	27	11月7日	内、外寛骨筋	
	28	運動器系	筋系各論⑤下肢の筋2	28	11月21日	大腿の筋	
	29	運動器系	筋系各論⑥下肢の筋3	29	11月28日	下腿の筋	
	30	運動器系	筋系各論④下肢の筋4	30	12月5日	足の筋、下肢の運動	
	31	運動器系	筋系各論・頭頸部の筋	31	12月12日	頭部の筋、頸部の筋	
	32	循環器系	循環器系総論	32	12月19日	循環総論、血管の構造	
	33	循環器系	循環器系・心臓	33	1月9日	心臓の構造	
	34	循環器系	循環器系・動脈	34	1月16日	動脈系総論・各部の循環	
	35	循環器系	循環器系・動脈	35	1月23日	各部の循環	
	36	循環器系	循環器系・静脈	36	1月30日	静脈系総論・各部の循環	
	37	後期末試験		37	2月6日	後期末試験	
	38	循環器系	循環器系	38	2月13日	各部の循環、門脈、胎児循環	
	39	解答・解説		39	2月20日	解答・解説	
	40	循環器系	循環器系	40	2月27日	リンパ	
	合計時数				40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	経穴概論 I	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>現代の科学をもってしても、経絡(けいらく)や経穴(けいけつ)の実態は解明されていない。経穴は「ツボ」であり、ツボは「経絡」という気血の通路の流れの中にある。鍼灸師は鍼や灸を用いてツボを刺激して施術を行うので、経穴の学習は必要不可欠である。</p> <p>しかし鍼灸師の経穴・ツボに対する認識は、各々かなり異なっている。現行の教科書には何故か主治の記載が無い。</p> <p>このように経絡経穴の教育に関しては多くの問題があるが、現代においてもなお神秘的で、しかも効果が高い伝統医学について、皆さんとともに再び学んでいきたいと思う。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点(60%)と実力試験の得点(30%)、小テストの獲得点数(10%)、問題ゼミの加点の合計点が各期末の評価となる。</p> <p>小テストの得点を獲得するには、小テストを受験しなければならない。(遅刻・欠席は当該実施回の得点を獲得できない)</p> <p>小テストは前期20回、後期20回、講義内容の復習テスト(全5問)を実施する。1回あたり0.5点となる。</p> <p>1週間以内に間違いを直して提出した者は、1回あたりの満点(0.5点)を獲得できる。</p>		
備 考			
参 考 書 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて資料の配布を行う。</li> </ul>		

## 第1学年 科目( 經穴概論Ⅰ )

## 担当 ( 北上 貴史 )

編	章	節	時数	日付	内容
1	第1章		1	4月11日	経絡・経穴の誕生・臓腑の概要
2	経絡・経穴の基礎		2	4月18日	経絡の概要
3			3	4月25日	十二経脈・流注原則
4			4	5月9日	奇経八脈総論
5			5	5月16日	経別、絡脈、経筋、皮部について
6			6	5月23日	経穴の概要
7			7	5月30日	骨度法
8		要穴	8	6月6日	要穴の概略
9		要穴	9	6月13日	要穴の概略②
10	第2章		10	6月20日	取穴に必要な解剖学的要件①
11	経脈・経穴		11	6月27日	取穴に必要な解剖学的要件②
12		十四経 奇経	12	7月4日	督脈の経穴 部位と取穴
13			13	7月11日	任脈の経穴 部位と取穴
14		正経十二経	14	7月18日	太陰肺経の経穴・部位と取穴
15			15	7月25日	陽明大腸経の経穴・部位と取穴
16			16	8月1日	陽明胃経の経穴・部位と取穴①
17	前期末試験		17	8月22日	前期末試験
18			18	8月29日	陽明胃経の経穴・部位と取穴②
19	解答・解説		19	9月5日	解答解説
20			20	9月12日	太陰脾経の経穴・部位と取穴
21			21	9月26日	少陰心経の経穴・部位と取穴
22			22	10月3日	太陽小腸経の経穴・部位と取穴
23			23	10月10日	太陽膀胱経の経穴・部位と取穴①
24			24	10月17日	太陽膀胱経の経穴・部位と取穴②
25			25	10月24日	太陽膀胱経の経穴・部位と取穴③
26			26	10月31日	少陰腎経の経穴・部位と取穴
27			27	11月7日	厥陰心包経の経穴・部位と取穴
28			28	11月21日	少陽三焦経の経穴・部位と取穴
29			29	11月28日	少陽胆経の経穴・部位と取穴①
30			30	12月5日	少陽胆経の経穴・部位と取穴②
31			31	12月12日	厥陰肝経の経穴・部位と取穴
32		奇穴	32	12月19日	奇穴①
33			33	1月9日	奇穴②
34		奇経	34	1月16日	奇経八脈
35			35	1月23日	奇経八脈②
36	第3章	経絡・経穴の現代医学的研究	36	1月30日	経絡現象・経穴の概念と現代科学的研究
37	後期末試験		37	2月6日	後期末試験
38			38	2月13日	演習
39	解答・解説		39	2月20日	解答・解説
40			40	2月27日	総括
合計時数			40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	鍼灸理論 I	分野区分	専門分野
担当教員名	金子 友則	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	前 期
講義内容	<p>鍼灸治療は、古代中国から発展してきた伝統的な治療法であり、最近では西洋医学との統合も進んでいる。本講義では、はり・きゅうの歴史的背景、基本知識、治療法、臨床応などに焦点を当て、学生がはり・きゅうの概念を理解し、安全かつ効果的に臨床へと結びつけられるように、鍼灸師の土台となる知識形成を行っていく。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点(60%)、実力試験の得点(30%)と小テスト(10%)の合計点を各期末の評価とする。小テストは各講義の最初に行い、範囲やテスト方法は都度指定する。</p>		
備 考	<p>オリエンテーションではプリントの整理の仕方や学習の進め方など、学生生活をする上で役立つ内容を扱う。 ※ 進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更が生じることもある。</p>		
参考書等	<p>教科書：はりきゅう理論 第3版(医道の日本社)</p>		

## 第1学年 科目(鍼灸理論Ⅰ)

担当(金子友則)

編	章	節	時数	日付	内容
1	オリエンテーション		1	4月12日	業界説明会(Ⅰ部)、オリエンテーション①
2	第1章	概論	2	4月19日	業界説明会(Ⅱ部)、オリエンテーション②/鍼灸施術の定義・特徴
3	第2章	鍼の基礎知識	3	4月26日	用具/古代九鍼
4	第3章	刺鍼の方式と術式	4	5月10日	刺鍼の方式・術式
5			5	5月17日	刺鍼の術式
6	第4章	特殊鍼法	6	5月24日	特殊鍼法①
7			7	5月31日	特殊鍼法②
8	第5章	灸の基礎知識	8	6月7日	灸の材料/線香
9			9	6月14日	モグサの種類【実技】
10	第6章	灸術の種類	10	6月21日	有痕灸/無痕灸
11			11	6月28日	くるみ灸【実技】
12	第7章	リスク管理	12	7月5日	安全対策の基本
13			13	7月12日	感染対策
14			14	7月19日	有害事象の種類と対処法
15	演習		15	7月26日	4択問題
16	演習		16	8月2日	プレ試験
17	前期末試験		17	8月23日	前期末試験
18			18	8月30日	枇杷の葉灸【実技】
19	解答・解説		19	9月6日	解答・解説
20			20	9月13日	吸角【実技】
前期			20	※日程は変更されることがあります。	
合計時数			20		

講義科目名	臨床医学総論 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	金子 友則	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	後 期
講義内容	<p>東洋療法を実践するうえで必要な臨床医学全般についての知識を身につける。  現代の医療ではチーム医療の重要性が叫ばれている。医療は医師を中心に実施されることが多いが、東洋療法が有効な患者や疾患も少なくはない。  鍼灸師が効果的な施術を実施したり、チーム医療の一翼を担ったりするためには、適切な医療を理解し、主たる症候に精通しておくことが必須である。</p> <p>本講義では患者への各種診察、臨床検査法に焦点をあて、医療従事者が臨床現場で活躍するための基礎知識を身につける。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点(60%)、実力試験の得点(30%)と小テスト(10%)の合計点を各期末の評価とする。  小テストは各講義の最初に行い、範囲やテスト方法は都度指定する。</p>		
備 考	<p>※ 進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更が生じることもある。</p>		
参考書等	<p>教科書:臨床医学総論 第2版(医歯薬出版株式会社)</p>		

第1学年 科目(臨床医学総論Ⅰ) 担当(金子友則)

編	章	節	時数	日付	内容
21	第1章	診察の概要	1	9月27日	診察の意義/一般的心得/関連用語の理解/診察法の種類
22			2	10月4日	診察の順序/記録の目的と内容
23	第2章	診察の方法	3	10月11日	医療面接①
24			4	10月18日	医療面接②
25			5	10月25日	視診/触診/打診/聴診
26			6	11月1日	測定法/神経系の診察
27	第3章	生命徴候の診察	7	11月8日	体温/脈拍
28			8	11月22日	血圧/呼吸
29	第4章	全身の診察	9	11月29日	顔貌・顔色/精神状態/言語
30			10	12月6日	身体計測/体型・体格/栄養状態
31			11	12月13日	姿勢と体位/歩行
32			12	12月20日	皮膚・粘膜・皮下組織
33			13	1月10日	爪の状態/リンパ節/その他の一般的状态
34	第8章	その他の診察	14	1月17日	救急時の診察/女性の診察/小児の診察/高齢者の診察
35	第9章	臨床検査法	15	1月24日	一般検査①
36			16	1月31日	一般検査②
37	後期末試験		17	2月7日	後期末試験
38	第9章	臨床検査法	18	2月14日	血液生化学検査①
39	解答・解説		19	2月21日	解答・解説
40	第9章	臨床検査法	20	2月28日	血液生化学検査②/生理学的検査および画像診断の概要

※日程は変更されることがあります。

合計時数

20

講義科目名	英 語	分野区分	基礎分野
担当教員名	笹本 哲也	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	前 期
講義内容	<p>我々の生きる現代において、英語を完全に切り離して生活することは不可能である。このことはもちろん専門性が高い医療の現場でも同じことが言える。とはいえ、日本国内にいながら日常生活で英語を使わなければならない人はごくわずかな人々であり、基本的表現を確実に使いこなせるようになることを主たる目的とする。それに加え、この授業においては、専門分野に関する英語表現だけでなく、生活の中でよく耳にする英語や、英語を使った会話をするための「きっかけ」作りになるようにしたい。専門用語等に関しては、単なる暗記はせず、語源を遡りながら積極的に使えるようになることを目標とする。</p> <p>この授業においては、これまで中学、高等学校で受けてきた授業とは異なるアプローチで英語に触れ、実際に利用する時間を多く設ける。</p>		
評 価	<p>成績は筆記試験の点数だけでなく、学生の授業参加度合い(授業内での発言や質問)も点数化して評価する。毎回の授業ですでに身に付けている知識を確認し、実際に使うことでただ「知っている」だけに満足するのではなく「使える」ことを目指して欲しい。</p>		
備 考	<p>授業中に語句の意味を確認することがあります。辞書を毎回持参してください。</p>		
参考書等	<p>毎授業時にプリント、資料配布</p>		



第1学年		科目(英語)		担当(笹本哲也)	
編	章	節	時数	日付	内容
1			1	4月12日	カリキュラム説明&模擬授業
2			2	4月19日	位置と方向を表す解剖学的用語
3			3	4月26日	人体各部の名称(頭部・体幹・四肢)
4			4	5月10日	主要な体腔 1
5			5	5月17日	主要な体腔 2
6			6	5月24日	主な臓器・器官の連結形 1
7			7	5月31日	主な臓器・器官の連結形 2
8			8	6月7日	日常生活で有用な英会話例 1
9			9	6月14日	日常生活で有用な英会話例 2
10			10	6月21日	患者との基本会話例 1
11			11	6月28日	患者との基本会話例 2
12			12	7月5日	診察中の患者に対する指示 1
13			13	7月12日	診察中の患者に対する指示 2
14			14	7月19日	鍼灸基礎用語1
15			15	7月26日	鍼灸基礎用語2
16			16	8月2日	試験内容の総まとめ授業
17	前期末試験		17	8月23日	前期末試験
18			18	8月30日	対話のまとめ ロールプレイング
19	解答・解説		19	9月6日	解答・解説
20			20	9月13日	英会話総合演習
前期			合計時数	20	※日程は変更されることがあります。

講義科目名	保健体育	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 貴史	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	後 期
講義内容	<p>授業は座学と実技にて行う。  運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、  運動に親しむ能力を高めること。また個人生活及び社会生活における  健康・安全に関する理解を通じ、健康についての総合的な認識を深め  生涯において自己の健康を適切に管理し改善していくことに重点をおいて  学習を進めて行く。  総合的な理解を深めることができるようにする。</p> <p>体育分野では実際に身体を動かしながら、健康とスポーツについての関係性をリハビリ、  レクリエーション、介護予防などの側面から体験し理解を深める。  また、将来健康・運動指導等を患者さんに行えるよう、実技の方法論として  集団での指導に慣れる事を目標とする。</p>		
評 価	<p>期末試験だけでなく、授業に取り組む姿勢や積極性も成績に加味します。</p>		
備 考	<p>授業(実技・方法論)では動きやすい格好で参加して下さい。</p>		
参考書等	<p>現代保健体育改訂版 大修館等</p>		

第1学年 科目(保健体育)

担当(梅山 貴史)

編	章	節	時数	日付	内容
21			1	9月27日	オリエンテーション・自己紹介等
22	現代社会と健康	私たちの健康のすがた/生活習慣病の予防	2	10月4日	実技・方法論①
23			3	10月11日	生活習慣病の予防
24			4	10月18日	実技・方法論②
25			5	10月25日	実技・方法論③
26		食事と健康/性感染の予防	6	11月1日	6つの基礎食品群/感染症の分類
27			7	11月8日	実技・方法論④
28			8	11月22日	実技・方法論⑤
29		保健サービスとその活用/医療サービスとその活用	9	11月29日	保健行政と保健の仕組み
30			10	12月6日	実技・方法論⑥
31			11	12月13日	実技・方法論⑦
32		健康で安全な社会づくり/大気汚染と健康	12	12月20日	地域包括ケアシステムについて・様々な大気汚染
33			13	1月10日	実技・方法論⑧
34	社会生活と健康		14	1月17日	実技・方法論⑨
35		心肺蘇生法の原理と手順/心肺蘇生法の行い方	15	1月24日	心肺蘇生法の手順
36			16	1月31日	実技・方法論⑩
37	後期末試験		17	2月7日	後期末試験
38			18	2月14日	実技・方法論⑪
39	解答・解説		19	2月21日	解答・解説
40			20	2月28日	実技・方法論⑫
合計時数			20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	臨床実習 I	分野区分	専門分野
担当教員名	荒木 宏之(実務経験有り) 今井 香菜(実務経験有り) 佐野 潮里(実務経験有り)	講義回数	50 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>臨床実習 I では、鍼灸臨床に関する基礎を学ぶ。</p> <p>臨床とは患者さんに会い、受付をし、声の調子、文字の勢い、書き方、立ち居振る舞い、その他様々な情報を施術者が観察、感知し、具体的にどのようなアプローチをすれば、患者さんの苦痛や違和感を取り除くことのできるのかを考え、実行することである。</p> <p>本講座では、臨床で実際に行われるすべての要素を見学し、実際に自分で触れて、見て、変化を感じるために開講する。</p> <p>就職ガイダンスでは、将来的なビジョンの獲得を目指す。</p> <p>就職先として、様々な分野の、それぞれの考え方や施術方法などを学ぶことで、自分のビジョンを明確にし、早い段階から仕事に対する意識を持つようにする。</p> <p>国家資格を取得した暁に、鍼灸師として「先生」と呼ばれるにふさわしい医療人となれるよう、この実習を生かして頂きたい。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内実習における出席、授業態度、積極性、レポート</li> <li>・各種イベントの出席、積極性など</li> </ul> <p>以上の事柄を各回毎に評価し、終了時点の総合判定で最終評価とする。</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内実習については時間割に記載された時間に実施する。</li> <li>・課外活動の時間などの詳細については、その都度事前アナウンスを行う。</li> </ul>		
参考書等			

第1学年		科目(臨床実習Ⅰ)		担当(荒木 宏之・今井 香菜・佐野 潮里)	
参加	活動	実習	時数	日付	内容
1	新入生オリエンテーション		1	4月7日	新入生オリエンテーション
2			2		
3			3		
4	統合医療講座①	全員	4	5月26日	統合医療について学ぶ。
5			5		
6			6		
7	課外活動 球技大会	1日の活動に参加すること。	7	6月6日	ケガの予防や発生時の対処法を学ぶ。
8			8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		
16			学校内実習①		
17	17				
18	18				
19	学校内実習②	右記のうち、 1日の活動に参加すること。	19	7月8日 7月11日	
20			20		
21			21		
22	同窓会		22	7月14日	同窓会
23			23		
24	就職ガイダンス	1日の活動に参加すること。	24	8月4日	就職ガイダンス(就職についての心構え・イメージづくり)
25			25		
26			26		
27	学校内実習③	右記のうち、 1日の活動に参加すること。	27	9月2日 9月5日	臨床の現場での患者対応(受付業務・話し方・問診の取り方など)や 施術について(身体の見方・触れ方・ストレッチ指導など)学ぶ。
28			28		
29			29		
30	統合医療講座②	1日の活動に参加すること。	30	9月29日	統合医療について学ぶ。
31			31		
32			32		
33			33		
34			34		
35	課外活動 体育大会	1日の活動に参加すること。	35		
36			36		
37			37		
38			38		
39			39		
40	学校内実習④	右記のうち、 1日の活動に参加すること。	40	10月1日	ケガの予防や発生時の対処法を学ぶ。
41			41		
42			42		
43	学校内実習⑤	右記のうち、 1日の活動に参加すること。	43	10月7日 10月10日	臨床の現場での患者対応(受付業務・話し方・問診の取り方など)や 施術について(身体の見方・触れ方・ストレッチ指導など)学ぶ。
44			44		
45			45		
46	学校内実習⑥	右記のうち、 1日の活動に参加すること。	46	11月18日 11月21日	有資格者による実際の施術を体験し 校内実習で学んだ内容の理解を深める。
47			47		
48			48		
49	校内実習 職業体験	1日の活動に参加すること。	49	12月 予定	
50			50		
50	合計時数		50		※日程は変更されることがあります。

前期  
後期